

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402200		
法人名	有限会社 春陽会		
事業所名	グループホーム うらの里		
所在地	長崎県 南島原市 有家町 蒲河 415番地		
自己評価作成日	令和 2年 7月 30日	評価結果市町村受理日	令和2年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「陽気に 楽しく いきいきと！」をモットーに、グループホーム うらの里の利用者・家族・職員・周りの人たちが、「陽気に 楽しく いきいきと」日々を過ごしていただけるよう努めています。</p> <p>・利用者、家族の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援することを大切にし、利用者、家族の意向にできるだけ柔軟に対応できるようにしています。</p> <p>・地域との交流を大切にし、各種イベントに参加したり、地域からの求めがあった時には、可能な限り協力するようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>北に平成新山を臨む場所に当ホームは存在する。職員はホーム中庭に芝生や植栽を行うなど入居者が自然を身近に感じることができる環境づくりに努めており、入居者の癒しとなっている。対面式キッチンで調理する職員の姿や食事の匂い、音を感じられる家庭的な雰囲気が随所に確認でき、日々の献立も入居者のリクエストをもとに作成したり、ホームの家庭菜園で収穫した旬の野菜を食卓に並べたりするなど食事が楽しいものとなるよう努めている。ホームは地域の祭りへの参加や地元中学生の職場体験・高校生の介護研修を積極的に受け入れるなど地域との交流を大切にしており、近隣住民とは有事の際の相互関係を構築している。管理者及び職員は家族より要望があった時は早急に対応し、入居者・家族の意向に沿えるよう努めており、職員がホーム内研修を自主的に企画するなどホーム運営に丸となって取り組んでいることも窺え、入居者支援の質の向上へと繋げている。管理者は職員の資格取得に向けてサポート体制を整えるほか、相談しやすい・働きやすい職場づくりに努めており、笑顔の絶えない入居者・職員の温かな姿から今後も期待の持てるホームと言える。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 うんぜん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「陽気に 楽しく いきいきと！」を合言葉に、5つの介護理念があり、その理念に沿った支援ができていないか、職員会議などで話し合い、確認している。どのように支援すればよいか迷った時には、理念に立ち返って判断するようにしている。	ホームでは開設当初より掲げる理念をリビングに掲示し、職員が日々の業務の中で確認できるよう周知を図っている。職員は入居者の起立動作時や歩行する際、本人の能力に合わせて見守りを行うことで過介助にならないよう配慮するなど介護理念に沿った支援に努めている。また、入居者の笑顔が引き出せるよう明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の中学生の職場体験学習、高校生の介護職員初任者研修施設実習・介護福祉士養成過程介護実習、ボランティア等を積極的に受け入れている。美術展覧会や地元のイベント、祭り等に参加したり、夏祭りを開催して、地域住民、各種団体に参加していただき交流し、地域とのつながりを大切にしている。	ホームには地元保育園・幼稚園から遊戯の披露での訪問や老人会から訪問があるほか、高齢者社会参加支援事業ボランティアを受け入れるなど、地域との交流を大切にしている。また、地元神社の祭りでホーム中庭に神輿が来た際には賽銭をあげることが入居者の楽しみとなっている。近隣住民とホーム代表・管理者間で地域情報の交換を行っており、有事の際は互いに協力し合える関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、これまで積み上げてきた実践内容を活かして、地域の様々な研修、会合、行事に参加して、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた指導、助言は職員会議で話し合っている。年間行事計画の充実に繋げる等、積極的に活用している。運営推進会議の議事録をご家族に報告し、意見を聞いてサービス向上に役立てている。	運営推進会議はユニット合同で行政職員・民生委員・家族代表・知見者参加のもと実施しており、参加者の運営に関する要望に対し、ホームとしてどう対応するのか返答するなど、活発な意見交換の場となっている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けたホームの取り組みについて詳細に説明することで入居者・家族の安心へと繋げている。職員の異動や新たな入職者の紹介についても行うことで信頼関係構築に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがあったら、まず、市の担当者に聞くようにしている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、情報の共有を図っている。	管理者は運営推進会議を通じて行政担当者へホームの実情を伝えており、新型コロナウイルス対策について相談しその都度対応するなど、協力関係を築いている。また、南島原市ホーム長会では昨年度より研修担当として活動するほか、加入する日本認知症グループホーム協会から得る厚生労働省発信の最新情報を職員へ伝えることで学びの機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回以上開催し、内容を報告をしている。高齢者の権利擁護や身体拘束等に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会をして、身体拘束の適正化等の理解を深めている。緊急やむを得ない場合以外は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームでは身体拘束適正化委員会を行う際、職員全員が出席することで身体拘束に該当する行為・言動について理解を深めている。今年8月にはグループホーム連絡協議会の主催する虐待防止研修会へ参加した職員が職員会議にて他職員へ伝達講習を行い周知を図っている。現在、転倒予防を目的とした人感センサーの夜間使用について家族同意のもと行っているが、定期的にカンファレンスを行いセンサー使用の必要性について検討するなど、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会やホーム内研修会、職員会議等で、高齢者虐待防止関連法について学び、理解を深めている。虐待防止に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会を開いて、権利擁護に関する理解を深め、利用者の支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者・家族に安心して利用していただけるよう丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化した場合や看取り介護に関する指針、医療連携体制の実施等について詳しく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や面会時等に意見、要望を聞くようにしている。なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等は、職員会議や申し送りの時に話し合い、反映させている。	職員は受診の結果について家族へ報告する際に入居者に関する意見や要望を聞くよう努めている。運営推進会議で家族より入居者本人の身体のために裸足で芝生を歩かせて欲しいとの要望に対し、ホーム年間行事へ組み込むなど対応することでサービス向上に繋げている。また、家族との外出時に車椅子が乗車できる福祉車両を貸し出すなど、入居者・家族の要望に沿えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、申し送り時などに職員の意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、なるべく職員の意見や提案を反映するようにしている。	管理者は毎月の職員会議やケア会議後に職員の意見や要望を聞くよう努めており、職員より挙げた転倒予防のための手すりスタンドやベッドのL字柵を購入するなど運営に反映している。また、職員の勤務シフトの調整を行うことで、資格取得に向けたサポート体制を整えている。職員自身も自主的にホーム内研修を企画するなどホーム運営に積極的に取り組んでいることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会になるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、研修報告書を作成し、全職員が閲覧できるようにしている。また、ホーム内研修会を実施し、職員の介護サービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護施設への見学や、各種研修会、地域のホーム長会を通して、事業所外の人々の意見や経験を聞いて、サービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の日頃の状態をこまめに聞き取り、なんでも話していただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族の思いに寄り添いながら、信頼関係が築けるようにしている。可能な限り柔軟な対応をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、必要なことを理解して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、安心して穏やかな生活ができるような言葉かけをして、共に過ごし支えあう関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしのできごとや気づきの情報の共有に努め、本人を支えるために家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いに行ったり、面会に来ていただくように支援している。	職員は自身の持つ思いを言葉で伝えることができない入居者について、テレビ電話を通して家族と顔を合わせることで関係が途切れないよう支援している。希望があれば自宅までの送迎を行い、家族とともに過ごせる機会を増やせるよう努めている。また、本人の希望時に馴染みの店や美容室に出掛けるほか、入居者の作品を地域の美術展覧会に出展することで趣味活動の継続に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報をすべての職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々変化するので、注意を払うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、継続的なつきあいができるように心掛けている。相談や要望等があるときには応えられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉をかけ、言葉や表情などから希望、意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て、本人の意向はどのようなものか理解するようにしている。	職員は入居前のアセスメントで入居者本人の生活状況や本人・家族の希望を聞き取り、本人の望む暮らしの実現に向けて支援に取り組んでいる。職員は朝の就業時と夕方の終業時に入居者一人ひとりに挨拶を行い、会話の機会を多く持つことで意向の把握に努めている。入居者や家族からの要望は申し送りノートで共有を図っており、毎月行うケア会議で全入居者の状態の把握や意向に沿った支援を行っているか確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、自宅を訪問したり、本人や家族、関係者などから聞き取りをしている。入居してからも、これまでの暮らしについて聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、できないことよりもできることに注目し、その人の現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリングなどを行っている。	ホームでは今年9月より介護計画書にサービス担当者会議の開催理由(期間到達・更新・看取り介護・状態変化)の項目を追加しており、入居者本人の状態に応じて見直しを行うことで現状に即した介護計画となるよう努めている。職員は毎日記録表に介護計画のサービス内容が実施できているかを記入することで、サービス内容の意識付けを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、食事量・排泄などの身体の状態や、日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしている。勤務開始前に記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、必要な支援は柔軟に、多機能的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人と地域資源とのさまざまな接点を見出し、本人の力を発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関での医療を受けられるよう家族と協力し、通院援助を行ったり、往診に来てもらったりしている。	ホームには2週間毎にかかりつけ医による訪問診療があるほか、週1回訪問看護師来訪の際に入居者の状態を伝えることで病状把握に努めている。受診後、職員は受診記録ノートに受診結果や医師からの指示を記入し、職員間での情報共有を図っている。また、入居者の体調が急変した際の対応マニュアルをホーム玄関に掲示している。入居者の治療方針を決定する際には家族へ受診同行を依頼し、本人・家族の希望に沿った治療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師が2名いて、常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護事業所と医療連携業務委託契約を結んでいて、月に4回の看護師の訪問の際に、利用者の状態を伝えて、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話す機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した時、終末期の対応指針を定め、家族・医師・職員を交えて話し合いをして、看取り介護についての同意を得ている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いなどを考慮しながら支援に取り組んでいる。	ホームでは入居前にホームで対応し得る最大のケアについてあらかじめ家族へ説明・同意を得ており、看取りに関する内部研修を行うことで職員の知識を深めている。現在、在宅酸素・喀痰吸引・経管栄養・点滴に対応可能であり、必要に応じて看護職による勉強会を行うことで入居者の意向に沿った支援に取り組んでいる。平成30年4月には医療的ケアに関する規定を策定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開催している自衛消防隊研修や普通救命講習会に参加したり、ホーム内研修会等により、すべての職員が利用者の急変や事故発生時に適切に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震、水害等の災害を想定した消火訓練、通報訓練、避難訓練を毎月行い、全職員が、災害時の対応ができるようにしている。また、非常時にはお互いに協力し合うように近隣住民や施設にお願いしている。	ホームでは職員の異動時に消防・自然災害の計画書を更新し、現状に即した計画書となるよう努めている。今年9月の台風の際には停電に備えて自家発電機を稼働し動作確認を行うなど、自然災害の発生に備えている。毎月行う自主避難訓練では有事の際の職員の対応や役割分担の確認を行っている。また、火災は自衛消防組織図、自然災害は役割分担表に沿って対応するよう周知している。	避難訓練について出火場所や日中・夜間などいつ・何を想定した訓練なのか記載がなく、訓練時の消防署立ち会いの記録についても確認できなかったため、訓練を振り返る際に状況把握ができないことが予想される。詳細な記載ができる書式を作成することが望まれる。また、避難先でのスムーズな対応に繋がられるよう、例えば入居者情報をまとめた一覧表を作成するなど、有事の場合に備えた今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りの時に、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライドを損ねる言葉かけや対応をしてないか確認している。	職員は入居者が人生の先輩であることを念頭に置き、不適切な言葉にならないよう笑顔での優しい言葉掛けに努めており、不適切な言葉掛けがあった時は職員間で注意し合い改善している。排泄誘導時には言葉掛けを工夫し、その方の誇りを損ねないように配慮している。また、ホーム内の接遇マナー研修受講後、職員会議にて改めて伝達講習を行い日々の支援の振り返りを行った。	居室に設置しているポータブルトイレについて、本人の使い勝手を考慮した上で未使用時には目隠しを行うなど、入居者の持つ誇りやプライバシーを損ねないよう配慮することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、本人が自己決定できる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみをしてもらい、おしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。希望に合わせたヘアカットを職員がしたり、馴染みの美容室への外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事ができるよう雰囲気作りを大切にしている。ホーム敷地内の家庭菜園で作った野菜を食材として使ったり、利用者にはじゃがいもの皮むきなどを手伝ってもらっている。	献立は日頃から入居者のリクエストをもとに作成している。食卓にはホームの家庭菜園で収穫した旬の野菜が並べられ、そうめん流しなど季節に応じた内容で提供することで入居者にとって食事が楽しみとなるよう努めている。また、刻み食・ミキサー食・トロミを付けるなど入居者個々の能力に応じた食事形態で提供することで、安心して食事が摂れるよう配慮している。入居者の誕生日には本人の好きな物を献立に取り入れ喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎食、介護記録に記録し、職員が情報を共有している。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、十分な食事がとれるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて、歯磨きの声掛けや、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。	職員は各入居者の介護記録で排泄状況を把握するとともに、適宜トイレへ誘導することでトイレでの排泄へと繋げている。尿取りパットやリハビリパンツについてはその方の体調や身体状況に応じて検討することで不必要な使用とならないよう努めている。また、自室ベッドからトイレへの動線上に手すりスタンドを設置し、排泄動作が安全に自立して行えるよう支援している。排泄失敗時には入浴を行い保清に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事、排泄、日常生活の状態などを記録して、個々に応じた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴していただくようにしている。また、安心して入浴していただくよう複数の職員で入浴介助するなど工夫をしている。	ホームでは2日毎に入浴支援を行っており、本人からの希望に応じて毎日入浴することも可能である。職員は季節に応じてゆず湯・しょうぶ湯を準備し、入居者にとって入浴が楽しいものとなるよう配慮するほか、入浴を拒否する方には言葉掛けを工夫して誘導するなど、気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴後は主治医処方軟膏を塗布し、保湿に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、状態に変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、野菜の皮むき、新聞折り、洗濯物たたみ、編み物など得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお手伝いをお願いしたり、役割をもっていたいでいる。やってもらったら、その都度、感謝の言葉をかけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、外出する機会は減っているが、必要に応じて、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた外出支援をしている。天気の良い日には、短時間でも中庭に出るようにしている。	職員は気候が良い時はできるだけホーム中庭で外気浴を行い、椅子を準備し歌を歌うなど楽しみを提供することで入居者の気分転換を図っている。また、桜・つつじなどの花見見物やドライブ、地元の祭りへの参加など戸外に出掛けられるよう支援している。更に、家族と外出する際には転倒の危険性について伝え、外出が安全で楽しいものとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。家族の希望により、少額のお金を入れた財布を本人で管理している利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中お見舞いのハガキを出す支援を行っている。利用者の希望に応じて電話をかけた手紙を送る支援をしている。利用者本人用の携帯電話を持参されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節にあった手作りポスターを張ったり、ゆず湯、しょうぶ湯、クリスマスイルミネーションなどをして季節を感じて、居心地よく過ごせるようにしている。	ホームリビングの掃き出し窓からは明るく温かな光が入り、対面式キッチンで調理する職員の姿や食事の匂い、音を感じられる家庭的な雰囲気であるとともに、庭の芝生や植栽など自然を大切に環境づくりに力を入れており、入居者の癒しとなっている。入居者が生けた生花からは季節を感じることができ、共用空間は職員による毎日の掃除で清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを設置し、絵画やお花などを飾って、心地よい空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みものを持ってきていただくようにしている。写真立てや使い慣れた日用品、テレビ、ラジオなどを持って来られている。	居室にはトイレ・洗面台が備え付けであるほか、テレビ・タンス・椅子・テーブルなど入居者思いおもいの品が持ち込まれており、職員は入居者に居心地良く過ごしてもらえるよう支援している。室内には地震時の対策としてタンスが倒れないよう固定することで安全面に配慮するほか、インフルエンザ等の感染症対策として加湿器を設置しており、入居者の健康管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを把握し、状況に合わせて安全に生活できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ありあけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「陽気に 楽しく いきいきと！」を合言葉に、5つの介護理念があり、その理念に沿った支援ができていないか、職員会議などで話し合い、確認している。どのように支援すればよいか迷った時には、理念に立ち返って判断するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の中学生の職場体験学習、高校生の介護職員初任者研修施設実習・介護福祉士養成過程介護実習、ボランティア等を積極的に受け入れている。美術展覧会や地元のイベント、祭り等に参加したり、夏祭りを開催して、地域住民、各種団体に参加していただき交流し、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、これまで積み上げてきた実践内容を活かして、地域の様々な研修、会合、行事に参加して、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた指導、助言は職員会議で話し合っている。年間行事計画を充実させる等して、積極的に活用している。運営推進会議の議事録をご家族に報告し、意見を聞いてサービス向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがあったら、まず、市町担当者に聞くようにしている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回以上開催し、内容を報告をしている。高齢者の権利擁護や身体拘束等に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会をして、身体拘束の適正化等の理解を深めている。緊急やむを得ない場合以外は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会やホーム内研修会、職員会議等で、高齢者虐待防止関連法について学び、理解を深めている。虐待防止に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加したり、ホーム内研修会を開いて、権利擁護に関する理解を深め、利用者の支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者・家族に安心して利用していただけるよう丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化した場合や看取り介護に関する指針、医療連携体制の実施等について詳しく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や面会時等に意見、要望を聞くようにしている。なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等は、職員会議や申し送りの時に話し合い、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、申し送り時などに職員の意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、なるべく職員の意見や提案を反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会になるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、研修報告書を作成し、全職員が閲覧できるようにしている。また、ホーム内研修会を実施し、職員の介護サービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護施設への見学や、各種研修会、地域のホーム長会を通して、事業所外の人々の意見や経験を聞いて、サービスの向上に活かしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の日頃の状態をこまめに聞き取り、なんでも話していただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族の思いに寄り添いながら、信頼関係が築けるようにしている。可能な限り柔軟な対応をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、必要なことを理解して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、安心して穏やかな生活ができるような言葉かけをして、共に過ごし支えあう関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしのできごとや気づきの情報の共有に努め、本人を支えるために家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いに行ったり、面会に来ていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報をすべての職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々変化するので、注意を払うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、継続的なつきあいができるように心掛けている。相談や要望等があるときには応えられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉をかけ、言葉や表情などから希望、意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て、本人の意向はどのようなものか理解するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、自宅を訪問したり、本人や家族、関係者などから聞き取りをしている。入居してからも、これまでの暮らしについて聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、できないことよりもできることに注目し、その人の現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリングなどを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、食事量・排泄などの身体の状況や、日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしている。勤務開始前に記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、必要な支援は柔軟に、多機能的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人と地域資源とのさまざまな接点を見出し、本人の力を発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関での医療を受けられるよう家族と協力し、通院援助を行ったり、往診に来てもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師が2名いて、常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護事業所と医療連携業務委託契約を結んでいて、月に4回の看護師の訪問の際に、利用者の状態を伝えて、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した時、終末期の対応指針を定め、家族・医師・職員を交えて話し合いをして、看取り介護についての同意を得ている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いなどを考慮しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開催している自衛消防隊研修や普通救命講習会に参加したり、ホーム内研修会等により、すべての職員が利用者の急変や事故発生時に適切に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震、水害等の災害を想定した消火訓練、通報訓練、避難訓練を毎月行い、全職員が、災害時の対応ができるようにしている。また、非常時にはお互いに協力し合うように近隣住民や施設にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や申し送りの時に、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライドを損ねる言葉かけや対応をしてないか確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、本人が自己決定できる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみをしてもらい、おしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。希望に合わせたヘアカットを職員がしたり、馴染みの美容室への外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事ができるよう雰囲気作りを大切にしている。ホーム敷地内の家庭菜園で作った野菜を食材として使ったり、利用者にはじゃがいもの皮むきなどを手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎食、介護記録に記録し、職員が情報を共有している。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、十分な食事がとれるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて、歯磨きの声掛けや、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事、排泄、日常生活の状態などを記録して、個々に応じた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴していただくようにしている。また、安心して入浴していただくよう複数の職員で入浴介助するなど工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更されたり、状態に変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、野菜の皮むき、新聞折り、洗濯物たたみ、編み物など得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお手伝いをお願いしたり、役割をもっといただいている。やってもらったら、その都度、感謝の言葉をかけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、外出する機会は減っているが、必要に応じて、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた外出支援をしている。天気がいい日には、短時間でも中庭に出るようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。家族の希望により、少額のお金を入れた財布を本人で管理している利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中お見舞いのハガキを出す支援を行っている。利用者の希望に応じて電話をかけた手紙を送る支援をしている。利用者本人用の携帯電話を持参されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節にあった手作りポスターを張ったり、ゆず湯、しょうぶ湯、クリスマスイルミネーションなどをして季節を感じて、居心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを設置し、絵画やお花などを飾って、心地よい空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただくようにしている。写真立てや使い慣れた日用品、テレビ、ラジオなどを持って来られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを把握し、状況に合わせて安全に生活できるようにしている。		